

第27回

うつのみやこども賞だより

平成22年度 第3回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『百年の蝶』

深月ともみ／作 友風子／絵（岩崎書店）



～読んだ本の感想より～

- ナユタとキリが二人で冒険する場面がおもしろかったです。
- 破られたおきてで、クニ長が水ノ守におそわれている場面にはく力を感じた。
- クニ長をおさえようとするナユタが印象に残った。
- ナユタがみんなをたすけるためにがんばる所がおもしろかった。
- オオカミがくまを倒す所がかっこよかった。
- センジュが人間じゃないのがびっくりした。
- この本は、ナユタが命の大切さを教えてくれる本でもあると思います。
- ナユタはやさしくて、心のきれいな人だと思いました。
- ナユタは「コクリの子」、キリは「クニの子」、
「子」はちがくてもふたりのきずながとても感動しました。
- キリとナユタの友情がとってもいいなと思いました。

『草の上で愛を』 陣崎草子／作 （講談社）

- チイちゃんとカン子は、まったくべつの道を進んでいるのにこれだけ仲がいいというのはすごいことだと思いました。私もこんな友達を作りたいです。
- 性格が正反対な2人がおもしろかった。
- カンコとチイちゃんの友情がふかまっていく所がおもしろかったです。
- 主人公たちがなやみに向かってがんばっている所がよかった。
- あらためて親の大切さを感じました。私は競馬をあまり知らなかったけれど、見てみたくなりました。
- 私は馬が好きなので、馬の話をしている場面がおもしろかったです。

『最後の七月』 長蘆安浩／作 （理論社）

- しょうがいを持っている人のお世話をしてくれるなんてすごいと思いました。
- 男3人の友情がいいと思います。最初は題名を見て、なんで最後の七月なんだろうと不思議に思ったけど「最後」という言葉にはいろいろな意味合いがあるのだと思いました。
- 本の名前がお話にぴったりだったと思います。
- 3人の言っている言葉がおもしろかったです。
- 方言での会話文が多いので、少し読みにくかったです。
- おもしろかったけど、私にはちょっと合わないかなと思いました。でもなかなか出会わない本に出会えてよかったです。

『引き出しの中の家』 朽木祥／作 （ポプラ社）

- 花明かりという小さな人がたくさん出てきてかわいかった。
- 引き出しの中に部屋があるのが面白いと思った。本当に花明かりが出てきそうな気がした。
- 自分も小さくなってひきだしの中のへやにいてみたいです。
- しんきん感の持てる作品でした。読んでいる私も、花明かりはいつ来るのかな？とすごくドキドキしました。
- だめいの「引き出しの中の家」にひかれて、すぐ話の中に引きこまれた。読んでいて楽しくなれました。また読みたいです。
- この本は、読んでいるとお話の中に入っていくみたい感じがします。
- 私も七重みたいに手先が器用だったらな～と思いました。
- 七重とこまこの子ども（まご）たちの、たくさんのおもしろい出来事がおもしろかった。